

福岡県感染症発生動向調査感染症週報

令和7年第7週（令和7年2月10日～令和7年2月16日）

福岡県感染症情報センター

■ コメント

- 第7週は、百日咳の報告が23件ありました。本疾患の病原体は百日咳菌で、患者の咳やくしゃみ等のしぶきに含まれる細菌を吸い込むことや、細菌に汚染されたものを触った手で、目、口、鼻等の粘膜に触れることによって感染します。5～10日程度の潜伏期間の後、風邪症状がみられ、徐々に咳が強くなっていきます。典型的な症状は、顔を真っ赤にしてコンコンと激しく咳き込み、最後にヒューと音を立てて息を吸う発作で、しばしば嘔吐を伴います。1歳以下の乳児、特に生後6ヶ月以下では重症化しやすく、亡くなる場合があります。成人では、咳は長期間続きますが、比較的軽い症状で経過することが多いため、百日咳にかかったと気づかずに、新生児や乳児へ感染させてしまう場合があります。気になる症状があるときは、医療機関を受診しましょう。咳が出ている場合は、咳エチケットを心がけるとともに、こまめに手洗いをしましょう。
- 百日咳は、DPT-IPV-Hib五種混合ワクチンで予防が可能で、生後2か月から定期接種が可能となっています。定期接種については、お住まいの市町村の予防接種窓口までお問い合わせください。
- 福岡県感染症情報ホームページ(https://www.fihs.pref.fukuoka.jp/~idsc_fukuoka/)では、感染症発生情報、病原体検出情報などをご覧になれます。

■ 全数把握疾患報告

病名	福岡県		全国（前週）	
	報告数	累積報告数	報告数	累積報告数
結核	15	87	226	1,265
腸管出血性大腸菌感染症	1	5	12	153
A型肝炎	1	2	4	14
アメーバ赤痢	2	4	8	45
劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1	13	29	224
梅毒	11	113	172	1,326
百日咳	23	99	262	1,150

■ 定点把握疾患報告数

警報レベル

注意報レベル

病名	福岡県			全国（前週）	
	報告数	定点当たり	前週比	報告数	定点当たり
新型コロナウイルス感染症	1,255	6.37	0.93	28,662	5.82
インフルエンザ	422	2.14	0.75	18,592	3.78
RSウイルス感染症	222	1.87	1.63	2,989	0.96
咽頭結膜熱	45	0.38	1.15	995	0.32
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	435	3.66	0.94	7,748	2.48
感染性胃腸炎	1,183	9.94	1.04	23,101	7.39
水痘	59	0.50	1.02	907	0.29
手足口病	10	0.08	2.00	236	0.08
伝染性紅斑	21	0.18	1.24	2,104	0.67
突発性発しん	38	0.32	1.15	622	0.20
ヘルパンギーナ	0	0.00	0.00	32	0.01
流行性耳下腺炎	5	0.04	1.67	90	0.03
急性出血性結膜炎	2	0.08	2.00	33	0.05
流行性角結膜炎	18	0.69	2.25	554	0.80
細菌性髄膜炎	0	0.00	-	9	0.02
無菌性髄膜炎	0	0.00	0.00	12	0.02
マイコプラズマ肺炎	7	0.47	0.78	225	0.47
クラミジア肺炎	0	0.00	-	1	0.00
感染性胃腸炎（ロタウイルス）	1	0.07	1.00	29	0.06

※新型コロナウイルス感染症について、現在、警報・注意報の基準値は設定されていません。